

<b>カウンセリング演習Ⅱ</b>	単位数	履修方法	配当年次
	<b>1</b>	<b>S(演習)</b>	<b>2年以上</b>
科目コード	<b>FG3686</b>	担当教員	<b>菊住 彰</b>

### ■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。1対1での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワーキング、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践力に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。

### ■到達目標

- 1) カウンセリングの基本的な技法を使って、クライアントの感情を表す言葉を引き出せる。
- 2) 非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライアントとの信頼関係を築ける。
- 3) 自分の感情や価値観に縛られずに、クライアントの言葉を受けとめながら聴ける。
- 4) クライアント個人だけではなく、その人の暮らす環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。

### ■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの姿勢①	クライアントに向き合う心構えの再考
2	カウンセリングの姿勢②	クライアントに向き合う態度の再考
3	カウンセリング技術の応用	さらに心を開いてもらうために
4	事例場面から学ぶ	映像教材と逐語録から検討
5	ロールプレイ①	基本的なやりとりを駆使する演習
6	ロールプレイ②	実際の場面設定での演習
7	カウンセリングの視点	何を目標に取り組むか
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

### ■講義の進め方

座学だけではなく、実際の面接の場面を映像で見ながら検討したり、参加者どうしでロールプレイを行ったりして、実践的な内容となります。

## ■スクーリング評価の基準

---

スクーリング試験100%（論述式。持込すべて可）

試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

## ■スクーリング時の教科書

---

福島脩美著『カウンセリング演習』金子書房, 1997年

## ■スクーリング事前学習

---

教科書は読んできてください。授業ではそれを前提に、実際のクライアントとかかわる場面を想定した練習に比重をおきます。

## ■スクーリング事後学習

---

授業で学んだことを、実際の生活に少しずつでも取り入れる努力を続けてください。繰り返し行って、意識せずに実行できるくらいになれば、本来の免許皆伝です。

## ■スクーリング推奨受講条件

---

本講義は原則的に「カウンセリングⅠ」または「カウンセリングⅡ」または「カウンセリング演習Ⅰ」のスクーリングを受講されるなど、カウンセリングの基礎知識をお持ちの方を対象としています。

## ■講師紹介

---

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授